

お口ポカン・口呼吸には意外な危険が

## 歯科で乳幼児期から対応可

### 歯とお口のコラム【5】

最近、お口の機能が不十分なお子さんが増えています。

「食べる」「飲み込む」「話す」機能が低下しているサインの一つがポカンと開いたお口です。

年齢が上がるにつれてその割合は増え、12歳の時点でお口が空いている子の割合は39・7%にもなります。

このような状態を「**口腔機能発達不全症**」といい、近年、保険診療にて早期の対応が可能となりました。

お口の機能の発達が不十分であると、顔の骨格や筋肉が発育せず、歯並びが乱れて咬み合わせも乱れてきます。

さらに、お口の機能低下は口呼吸を引き起こし、外気が扁桃を直接傷害しウイルス感染症や花粉症にかかり易くなります。また、鼻呼吸と比べると、脳への酸素供給が減少して学習成績にも影響を及ぼします。

武内歯科医院では専門チームが、口腔機能発達不全症の治療でお口の機能改善、  
歯科矯正治療で歯並びや咬み合わせの改善に取り組んでいます。

矯正治療を開始する適切な時期は7歳前後ですが、矯正治療前の年齢のお子様は、  
保険適用でお口の機能を改善していきましょう。

(医学博士 武内博朗)

タウンニュース(海老名・座間・綾瀬版) 2020年10月30日号 掲載

